

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 2 - 5

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		生活交通路線維持確保事業														
評価者	担当課名	財務企画課		担当係名		企画調整係										
	管理職	職名	課長		作成者	係長										
		氏名	原 正美			氏名	澤田朋朗									
事業の概要	自家用車の普及・人口減少等に起因する乗車人数の減少により、地域生活に必要な移動手段であるバス路線の維持が困難となっていることから、国・道及び近隣自治体との連携により、バス路線運行経費への補助を北紋バス及び宗谷バスに対して行っている				全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)	<table border="1"> <tr> <td>国・道支出金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>31,200 千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>31,200 千円</td> </tr> </table>	国・道支出金	千円	地方債	千円	その他	千円	一般財源	31,200 千円	事業費計	31,200 千円
国・道支出金	千円															
地方債	千円															
その他	千円															
一般財源	31,200 千円															
事業費計	31,200 千円															
実施方法	直営	民間委託		その他 ( )												
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業		非登載事業	優先度	A										
事業の位置付け	政策目標	4	うるおい・雄武 ~ 生活環境・生活基盤の充実 ~													
	基本施策	16	交通体系の整備													
	単 位 施 策	2	公共交通の維持・確保													
	事務事業の種類	自治事務		法定受託事務												
	その他計画・根拠等															
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)										
	国・道支出金	千円	4,359 千円	千円	千円	千円										
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円										
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円										
	雄武町負担額 (一般財源)	7,215 千円	1,780 千円	6,000 千円	6,000 千円	6,000 千円										
	合 計	7,215 千円	6,139 千円	6,000 千円	6,000 千円	6,000 千円										

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	独自の移動手段を有さない町民、公共交通機関を利用して当町を訪れる町外者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	乗車人数の減少により、国・道の補助要件を満たすことができなく、運行回数が減となる恐れがある	運行回数(日)			
		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	必要最低限である1日5便運行の現状維持を図る	運行回数(日) 宗谷バス・北紋バス	目標年度	各年度	
			目標値	5 回	
			実績値	5 回	
			達成度	100.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	独自の移動手段を有さない町民、公共交通機関を利用して当町を訪れる町外者に対して、最低限の生活移動手段が確保される		目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
バス事業者への運行経費補助	国・道からの補助を維持するため、収支差額応分額を運行収入補填としてバス事業者(北紋バス・宗谷バス)に対し補助				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	独自の移動手段を有さない町民、公共交通機関を利用して当町を訪れる町外者の移動手段となるバス路線は必要不可欠であり、行政の責任において維持する必要がある
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	本事業の実施により1日5回の運行が維持され、バス利用者の生活に支障をきたさなかったものと判断でき、有効である
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	1日あたりの乗車密度が5.0人を下回った場合、応分の国・道補助金額が減額されることから、運行回数の維持のため必要最低限の補助支援を行っている。補助を実施しない場合、減便となり代替対策を町で講じる必要があり、コストが増嵩するものである
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

概ね公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	すべての町民が受益者とはなり得ず、公平性の判断は難しいところであるが、路線維持は町民のニーズに応えるものであり、特に通学・通院者、高齢者にとっての重要な移動手段であることから、町民の理解が得られるものと判断する
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価(A～D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
独自の移動手段を有さない町民、公共交通機関を利用して当町を訪れる町外者の移動手段となるバス路線は必要不可欠であり、行政の責任において維持することは、利用者の日常生活上の利便性を確保する観点からも評価できる		

<b>今後の展開方向</b> (Action)	↓	↓	↓
	<b>継続 / 現状維持</b> 今後も協調支援している近隣自治体と歩調を合わせ、補助支援による路線維持を図る		
* 展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更      終了      休止      廃止			

### 5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--